

|               |   |                              |        |         |     |
|---------------|---|------------------------------|--------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング                     | 313001 |         |     |
| 科目名(英訳)       | 芸術の冒険(ADVENTURES OF ARTS)   |                              |        |         |     |
| 担当教員          | 春木有亮  |                              |        |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年                         | 学部1年次  | 単位数     | 2単位 |
| 講義形式          | 講義  | 受講人数                         | なし     | 開講時期    | 後期  |
| キーワード         | 感性、哲学、美学、ゲーム、まんが、アニメ、キャラクター、萌え、春画、性、裸、暴力、戦争、差別、反権力  |                              |        |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>尾田栄一郎のまんが『ワンピース』では、「ゴム人間」のルフィが、伸縮自在の体をぞんぶんに躍動させて暴れまわります。読者は、あたかもルフィの躍動につられるかのようにこころ弾ませて、物語にのめりこんでいきます。たほうでいまからおよそ100年前、アメリカのウォルト・ディズニーは、当時まだ新しかった、音つきアニメーション映画をつくりはじめました。そこでもまた、ミッキーマウスをはじめ動物や、手綱にほうきなどの小道具までもが、スクリーンせましとゴムのように伸縮します。映画世界全体が躍動し、観客のこころをおどらせます。ゴム人間ルフィとゴムねずみ、両者を貫く原理とはなにか。また逆に、両者のちがいはどこにあるのか。そんな問いから「芸術の冒険」は、はじまります。</p> <p>達成目標:生きるとはどういうことか、よく生きるとはどういうことか、世界とはなんであるか、を問うこと、ほか補足資料を参照。</p>   |                              |        |         |     |
| 授業内容          | <p>第1回 ルフィはなぜゴムなのか――にせもの vs ほんもの</p> <p>第2回 世界をうつす01――影、ペルセウスの盾</p> <p>第3回 世界をうつす02――ナルキッソスの水鏡、ラーの鏡</p> <p>第4回 世界をつくる01――もし、こうだったらいいのに</p> <p>第5回 世界をつくる02――これはいったい、なんなのか</p> <p>第6回 転回の世紀――東か西か、天か地か、神か人か</p> <p>第7回 スタイルの生起――人から人へ</p> <p>第8回 「芸術」の誕生――機械の技術、自由の技術、美の技術、そしてテクノロジー</p> <p>第9回 芸術の世界01――描きたいものを描く、描きたいように描く</p> <p>第10回 芸術の世界02――「りんごを描く」と「りんごの絵を描く」は、どちらがうのか</p> <p>第11回 芸術の世界03――描くとはどういうことかを、描く</p> <p>第12回 「アート」の世界――ルールをやぶることで勝つゲーム</p> <p>第13回 シミュレートする生01――ディズニーランド、おたく、キャラ化</p> <p>第14回 シミュレートする生02――とりあえず受験、とりあえず就活、そして終活へ</p> <p>第15回 ヴィデオ・ゲームの空間――マリオはどこに居て、ドラクエはどこへ向かうか</p> <p>※内容は変わるばあいがあります。</p> |                              |        |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 話す。書く。描く。歌う。踊る。   |                              |        |         |     |
| 教材・教科書        |   |                              |        |         |     |
| 参考文献          | 春木有亮『実在のノスタルジー――スーリオ美学の根本問題』ほか、授業中に紹介します。   |                              |        |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | <p>授業に対するレスポンス(贈りかえす力)を評価します。授業では、めくるめく芸術の世界、感性文化の世界を味わっていただくために、講師がさまざまな話や資料をみなさんに贈り届けます。講師がみなさんに贈るものをどのように受けとり、吟味し、評価、批判したか(自己評価、自己批判をも含む)を、講師に贈りかえしてください。贈りかえすさいの形式は自由です。論文、批評、エッセイ、詩、絵、ダンス、歌など、なんでもよいです。みなさんそれぞれが、「これだ」と思う形式を案出してください。よりくわしくは、授業で説明します。</p>   |                              |        |         |     |
| 必要な授業外学修      | 授業中に紹介したものに積極的にアクセスいただければありがたいです。   |                              |        |         |     |
| 履修上の注意        | オンラインの回は配信用URLをお知らせするので、第1回の前に、かならずコースパワーメッセージをチェックしてください。授業では、戦争、犯罪、暴力、性にかかわる資料、ことばを用いますので、ご承知おきください。そのほか、紙面が狭いせいで、このページにはすべてを書いてはいません。授業で配るシラバスの補足資料を、あわせてお読みください。  |                              |        |         |     |
| 関連科目(発展科目)    | 「ポピュラーカルチャー論」、「美学の世界」   |                              |        | 実務家教員担当 | ○   |
| その他           | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】                  |        |         |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | haruki@mail.kitami-it.ac.jp  |        |         |     |
|               | コメント  | みなさんそれぞれとの「出会い」をたのしみにしております。 |        |         |     |

|               |  |  |        |         |     |
|---------------|--|--|--------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング   | 313002 |         |     |
| 科目名(英訳)       | 日常の倫理(ORDINARY ETHICS)   |  |        |         |     |
| 担当教員          | 山田健二   |  |        |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年   | 学部1年次  | 単位数     | 2単位 |
| 講義形式          | 講義   | 受講人数   | なし     | 開講時期    | 後期  |
| キーワード         | 自由、自己決定、公正さ、生命   |  |        |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>授業の概要</p> <p>本授業科目は工学者としての総合的素養を涵養するための基礎科目であり、社会生活における多様な価値観に気づき、配慮する感受性を高めるとともに、世間的な常識に対して批判的に吟味・検討できる論理的思考を養うことを達成目的とする。自己決定や公正性など倫理的な重要概念を、たばこ病訴訟や死刑制度、臓器移植などといった具体的事例と照らし合わせつつ学習していくとともに、生命倫理、フェミニズム倫理、環境倫理などについても総合的に学習する</p> <p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理学、応用倫理学の基本的観点を理解できる</li> <li>・現実の諸問題の応用倫理的論点を理解できる</li> <li>・現実の諸問題を、応用倫理的に分析し、レポートにまとめることができる</li> </ul> |  |        |         |     |
| 授業内容          | <p>第1回:序論(慣習と倫理)</p> <p>第2回:自己決定(タバコ病訴訟を例として)</p> <p>第3回:自己決定の心理学(集団・権威の影響)</p> <p>第4回:自己決定の心理学(認知不協和とカルト)</p> <p>第5回:広告、プロパガンダ</p> <p>第6回:偏見、差別</p> <p>第7回:公正(嘘、ずる、ドーピング)</p> <p>第8回:公正(お金で買えるもの)</p> <p>第9回:公正(死刑存廃論)</p> <p>第10回:生命倫理(安楽死、尊厳死)</p> <p>第11回:生命倫理(妊娠中絶の権利)</p> <p>第12回:生命倫理(動物の権利)</p> <p>第13回:フェミニズム倫理</p> <p>第14回:環境倫理思想</p> <p>第15回:総括</p>   |  |        |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義   |  |        |         |     |
| 教材・教科書        | レジュメ配布   |  |        |         |     |
| 参考文献          | 授業中に適宜紹介する   |  |        |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 各回の小レポート6割、期末レポート4割で評価する。全体の60%以上の得点で合格とする。ただし期末レポートの提出は必須   |  |        |         |     |
| 必要な授業外学修      | 各回の予告された授業テーマについて、十分に下調べをしたうえで参加すること。また授業後の課題には、授業内容を十分確認して取り組むこと  |  |        |         |     |
| 履修上の注意        | 無断での途中入退中は禁止   |  |        |         |     |
| 関連科目(発展科目)    | 特になし   |  |        | 実務家教員担当 | —   |
| その他の          | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】  |        |         |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー  | 山田健二研究室(0157-26-9549, yamadake@mail.kitami-it.ac.jp) |        |         |     |
|               | コメント   | 質問は随時受け付ける   |        |         |     |

|               |   |  |        |         |     |
|---------------|---|--|--------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング   | 313003 |         |     |
| 科目名(英訳)       | 経営学(BUSINESS ADMINISTRATION)  |  |        |         |     |
| 担当教員          | ウ アテイ, 内島 典子  |  |        |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年   | 学部1年次  | 単位数     | 2単位 |
| 講義形式          | 講義  | 受講人数   | なし     | 開講時期    | 後期  |
| キーワード         | 生産管理、QC、経営戦略、マーケティング、ゲーム理論、財務管理、管理会計、人間関係論、人事管理、組織、経営倫理、産学官連携   |  |        |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>工学技術者・研究者が、第一線の現場で活躍する中で、組織や生産の管理、戦略策定、経営倫理、財務、会計、人事など、何らかの形で企業経営に関連する業務に携わることが多い。本科目では、企業経営に必要な経営学に関する全体像と基本的知識について講義する。</p> <p>&lt;授業の到達目標&gt;<br/>企業経営のために必要な知識とスキルに関する基礎的な事項を学び、その実践のための素地を得る。</p>   |  |        |         |     |
| 授業内容          | 第1回: ガイダンス・経営学全体像<br>第2回: 経営管理の発展<br>第3回: サプライ・チェーン・マネジメント<br>第4回: 人間関係論 モチベーション<br>第5回: 人間関係論 リーダーシップ<br>第6回: 人間関係論 チームワーク<br>第7回: 現場管理<br>第8回: 生産管理(1)<br>第9回: 生産管理(2)<br>第10回: 経営戦略<br>第11回: 市場戦略<br>第12回: 組織論<br>第13回: 国際経営論・日本的経営論<br>第14回: 産学官連携による経営推進<br>第15回: 経営マネジメント学の総括 |  |        |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義形式を基本とする。ディスカッション、問題提起、企画・提案、自らの課題設定、課題解決など、能動的な学習手法を用いる。   |  |        |         |     |
| 教材・教科書        | 必要に応じ、資料を配布する。  |  |        |         |     |
| 参考文献          | 必要に応じ、都度紹介する。   |  |        |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 11回以上出席した学生のみ成績判定を行う。<br>講義・ディスカッションの発言など50点、課題・レポート50点で、合計60点以上の得点で合格とする。  |  |        |         |     |
| 必要な授業外学修      | 毎回の授業で学び得た事項(専門用語などを含む)を整理し所感をまとめること。   |  |        |         |     |
| 履修上の注意        | 学習効果を高めるため、積極的な授業参画を心がけること。   |  |        |         |     |
| 関連科目(発展科目)    | 労働科学、管理システム学、産学官連携概論、   |  |        | 実務家教員担当 | —   |
| その他           | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】  |        |         |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | ウ アテイ教員室(3号館5階)、電話:0157-26-9400<br>メール:yuyating@mail.kitami-it.ac.jp |        |         |     |
|               | コメント  |  |        |         |     |

|               |   |  |        |         |     |
|---------------|---|--|--------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング   | 313004 |         |     |
| 科目名(英訳)       | 教育と社会(EDUCATION AND SOCIETY)  |  |        |         |     |
| 担当教員          | 久保比呂美   |  |        |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年   | 学部1年次  | 単位数     | 2単位 |
| 講義形式          | 講義  | 受講人数   | なし     | 開講時期    | 後期  |
| キーワード         | 学校教育 教職 教育課程 教育制度   |  |        |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>概要・到達目標</p> <p>自分自身が受けてきた学校教育や家庭教育を手がかりに人間の成長と発達、教育の歴史や教育思想、地域社会や家庭との関係、教員の役割、教育方法、現代社会の課題および未来の教育について学び、教育と社会の相互関係を多様な側面から考察することにより、教育を社会的文脈の中で捉え直し、自らの経験と結びつけながら教育課題を論理的に理解・説明し、主体的に意見を形成できるようになります。</p>   |  |        |         |     |
| 授業内容          | <p>第 1回 ガイダンス、人間の成長と発達</p> <p>第 2回 幼児期、学齢期、青年期の教育</p> <p>第 3回 教育の歴史:古代～近世の教育</p> <p>第 4回 教育の歴史:近代～現代の教育システムの変遷</p> <p>第 5回 課題1 プレゼンテーション歴史上の教育思想家:西洋編</p> <p>第 6回 歴史上の教育思想家</p> <p>第 7回 学校と社会:地域社会と学校の関係</p> <p>第 8回 学校と社会:家庭・様々な教育機関との連携</p> <p>第 9回 教員の役割と教育の責任</p> <p>第10回 課題2 プレゼンテーション</p> <p>第11回 教育方法の歴史</p> <p>第12回 教育方法:ITを活用した教育、アクティブラーニングほか</p> <p>第13回 現代社会の課題と教育:社会問題との関連</p> <p>第14回 未来の教育を考える:展望と可能性</p> <p>第15回 最終課題発表・まとめ</p> |  |        |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義、ディスカッション、課題、プレゼンテーションほか  |  |        |         |     |
| 教材・教科書        | 授業で資料を配布  |  |        |         |     |
| 参考文献          |   |  |        |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 授業内のタスク45%、課題35%、毎回のコメントシート20%により評価し、全体得点の60%以上取得で合格とする。  |  |        |         |     |
| 必要な授業外学修      | 予習、復習、プレゼンテーションの準備、課題作成など   |  |        |         |     |
| 履修上の注意        | 1回目講義の前半にガイダンスを行い詳細を説明する  |  |        |         |     |
| 関連科目(発展科目)    |   |  |        | 実務家教員担当 | —   |
| その他の          | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】  |        |         |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | 久保(地域国際系)0157-26-9372, kubo_h@mail.kitami-it.ac.jp |        |         |     |
|               | コメント  |  |        |         |     |

|               |  |                             |        |      |     |
|---------------|--|-----------------------------|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング                    | 313005 |      |     |
| 科目名(英訳)       | 健康科学(HEALTH SCIENCE)   |                             |        |      |     |
| 担当教員          | 柳 等  |                             |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年                        | 学部2年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式          | 講義   | 受講人数                        | なし     | 開講時期 | 前期  |
| キーワード         | 健康 体力 身体運動 身体トレーニング 自己管理   |                             |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | スポーツや運動を積極的に生活に取り入れた規則正しい生活習慣を身につけ、健康に対する自己管理の意識を植え付けるために、身体トレーニングの実践を通して健康に関する基礎知識を学ぶ。授業の到達目標として、健康および健康に関連した体力、健康のための身体トレーニングの方法、健康の自己管理について説明でき、実践できるようになることを目指す。   |                             |        |      |     |
| 授業内容          | 第1・2回「健康に関連した体力(講義)」<br>第3回「新体力テスト(握力,立ち幅跳び,反復横跳びほか)」<br>第4回「新体力テスト(20mシャトルラン)」<br>第5・6回「全身持久力とトレーニング(講義・実践)」<br>第7・8回「筋力・筋持久力とトレーニング(講義・実践)」<br>第9・10回「身体組成とその評価(講義・実践)」<br>第11・12回「運動とウェイトコントロール(講義・実践)」<br>第13回「感染症(講義)」<br>第14・15回「ストレスと運動(講義・実践)」 |                             |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義および実技(運動の実践)。<br>講義はPCプロジェクターと配付資料で行う。講義毎に課題を提出してもらう。<br>運動の実践(実技)として、「新体力テスト」および身体トレーニング等を行ってもらう。   |                             |        |      |     |
| 教材・教科書        | 配布資料   |                             |        |      |     |
| 参考文献          | 別途指示する   |                             |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 講義ごとの課題(80点満点)と「新体力テスト」・身体トレーニングの実践へ取り組む姿勢・意欲(20点満点)の合計点(100点満点)で評価する。合計点60点以上を合格とする。  |                             |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 専門用語の意味を調べて理解しておく。   |                             |        |      |     |
| 履修上の注意        | 実技の際は、スポーツに適したウエアとシューズを着用すること(ジーンズ,チノパン,カーゴパンツ等は不可)。<br>授業中の私語や他の学生に迷惑となる行為は禁止する。<br>授業に関係ない携帯電話の使用を禁止する。  |                             |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 体育実技I<br>体育実技II<br>(健康とスポーツ科学)   | 実務家教員担当                     |        | —    |     |
| その他の          | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】                 |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスワーカー<br>コメント   | yanagi@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |

|               |  |                                 |        |      |     |
|---------------|--|---------------------------------|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング                        | 313006 |      |     |
| 科目名(英訳)       | スポーツ測定学(SPORTS METROLOGY)  |                                 |        |      |     |
| 担当教員          | 中里 浩介  |                                 |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年                            | 学部2年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式          | 講義   | 受講人数                            | なし     | 開講時期 | 前期  |
| キーワード         | スポーツ科学,測定法,体力測定,身体運動   |                                 |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>身体が動く仕組みを理解し,スポーツ科学における各種測定法の原理について学ぶ.さらに実際に簡単な測定を通して理解を深める.</p> <p>身体が動く仕組みを説明でき,スポーツ科学に用いられる測定の方法を説明できるようになることが到達目標である.</p>   |                                 |        |      |     |
| 授業内容          | <p>第1回:授業計画・概要の説明<br/> 第2回:身体が動く仕組み<br/> 第3回:身体が動く仕組みII<br/> 第4回:体力の定義<br/> 第5回:身体組成の計測法<br/> 第6回:体力の計測法<br/> 第7回:体力の計測法II<br/> 第8回:計測の信頼性と誤差<br/> 第9回:動作の計測法<br/> 第10回:動作の計測法II<br/> 第11回:パワーの計測法<br/> 第12回:パワーの計測法II<br/> 第13回:科学的研究法<br/> 第14回:科学的研究法II<br/> 第15回:スポーツ測定学のまとめ</p> |                                 |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義および実技<br>講義はPCとプロジェクターを用いて行う.講義資料は講義毎に配布する.  |                                 |        |      |     |
| 教材・教科書        | 配布資料   |                                 |        |      |     |
| 参考文献          | 別途指示する   |                                 |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 講義内でのレポート課題(30%)+レポート試験(70%)とで評価し,60点以上で合格とする.   |                                 |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 専門用語の意味を調べて理解しておく.   |                                 |        |      |     |
| 履修上の注意        | 授業中の私語,および他の学生に迷惑となる行為は禁止する.<br>教員の指示が無い限り,携帯電話の使用を禁止する.   |                                 |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 体育実技I・II<br>身体運動の科学  | 実務家教員担当                         |        | —    |     |
| その他の          | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】                     |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー<br>コメント  | k-nakazato@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |

|               |  |  |        |      |     |
|---------------|--|--|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング   | 313007 |      |     |
| 科目名(英訳)       | テクノロジーの倫理(TECHNOLOGY ETHICS)   |  |        |      |     |
| 担当教員          | 山田健二   |  |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年   | 学部2年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式          | 講義   | 受講人数   | なし     | 開講時期 | 前期  |
| キーワード         | 科学と社会、科学の倫理、専門家責任  |  |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>授業の概要</p> <p>本授業科目は工学者としての総合的素養を涵養するための基礎科目であり、身の回りのテクノロジーについて、その技術的背景を正確に理解し、また人間社会に対するインパクトという観点から批判的に検討できる論理的思考を養うことを到達目標とする。疑似科学の蔓延に注意を向け科学リテラシーの重要性への理解を促し、ついでバイオテクノロジーや医療技術などの根幹技術に伴うリスクや、産業が引き起こす各種環境問題などを具体的に学習する</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テクノロジーが人間社会に与える問題について理解できる</li> <li>・テクノロジーの個別事例について、人間社会に与える問題について理解できる</li> <li>・個別の問題理解を踏まえて、科学技術の社会的責任について考察することができる</li> </ul> |  |        |      |     |
| 授業内容          | <p>第1回:オリエンテーションと序論</p> <p>第2回:科学の悪用(フェイク・サイエンス)</p> <p>第3回:医薬品と特許(特にエイズ薬)</p> <p>第4回:科学における迷信(反ワクチン論)</p> <p>第5回:人体実験としての臨床試験</p> <p>第6回:遺伝子診断・着床前診断</p> <p>第7回:遺伝子組み換え作物論争</p> <p>第8回:資源問題(持続可能性)</p> <p>第9回:資源問題(石油枯渇論)</p> <p>第10回:環境問題(リサイクルの考え方)</p> <p>第11回:環境問題(プラスチック廃棄物)</p> <p>第12回:環境問題(食品廃棄物)</p> <p>第13回:地球温暖化とCO2排出抑制問題</p> <p>第14回:原発と核廃棄物</p> <p>第15回:まとめ</p>   |  |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義   |  |        |      |     |
| 教材・教科書        | レジュメ配布   |  |        |      |     |
| 参考文献          | 授業中に適宜紹介する   |  |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 各回の小レポートの総計を6割、学期末の期末レポートを4割として評価する。全体の60%以上の得点で合格とする。ただし単位取得にはレポート提出が必須   |  |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 各回の予告された授業テーマについて、十分に下調べをしたうえで参加すること。また授業後の課題には、授業内容を十分確認して取り組むこと  |  |        |      |     |
| 履修上の注意        | 無断での途中入退出は禁止   |  |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 科学技術論  | 実務家教員担当  |        | —    |     |
| その他の          | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】  |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー  | 山田健二研究室(0157-26-9549, yamadake@mail.kitami-it.ac.jp) |        |      |     |
|               | コメント   | 質問は随時受け付ける   |        |      |     |

|               |   |  |        |      |     |
|---------------|---|--|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング   | 313008 |      |     |
| 科目名(英訳)       | 言語の構造と機能(STRUCTURE AND FUNCTION OF LANGUAGE)  |  |        |      |     |
| 担当教員          | 戸澤隆広  |  |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年   | 学部1年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式          | 講義  | 受講人数   | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | 言語学、生成文法  |  |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | 人間はことばを話したり、理解することができる。これが可能なのは、普遍文法が生得的に備わっているからである。この授業では、(i)言語知識とは何か、(ii)それがどのようにして獲得されるのか、(iii)それがどのように使用されるのかを考える。本授業の達成目標及びテーマは(i)言語の普遍性を理解する、(ii)言語の規則に基づいて、言語現象が説明できるようになる。(iii)言語を科学的に考察することにより、論理的思考法を身につける、以上の3点である。学生は入念な予習・復習を行う必要がある。 |  |        |      |     |
| 授業内容          | 第1回:導入<br>第2回:人間言語について(1):動物のことばとの比較<br>第3回:人間言語について(2):ロボットのことばとの比較<br>第4回:日本語と英語の共通点・相違点<br>第5回:多義文<br>第6回:文の構造<br>第7回:言語の回帰性<br>第8回:句構造規則<br>第9回:言語獲得<br>第10回:普遍文法と個別文法<br>第11回:言語を操る脳<br>第12回:連濁<br>第13回:同化<br>第14回:文の意味<br>第15回:言外の意味          |  |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義が基本だが、適宜、課題について発表してもらう。   |  |        |      |     |
| 教材・教科書        | 授業開始時に指示する。   |  |        |      |     |
| 参考文献          | なし  |  |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 全ての授業が終わった後に、レポートを課す。100点満点中60点以上で合格とする。  |  |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 予習・復習をする。   |  |        |      |     |
| 履修上の注意        | なし  |  |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 現代言語学   | 実務家教員担当  |        | —    |     |
| その他の          | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】  |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | 戸澤隆広(電話:0157-26-9551, メール:tozawata@mail.kitami-it.ac.jp) |        |      |     |
| 他             | コメント  |  |        |      |     |

|                |  |                               |        |      |     |
|----------------|--|-------------------------------|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属      | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング                      | 313009 |      |     |
| 科目名(英訳)        | 世界の文学(WORLD LITERATURE)  |                               |        |      |     |
| 担当教員           | 高城 翔平  |                               |        |      |     |
| 科目区分           | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年                          | 学部1年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式           | 講義   | 受講人数                          | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード          | 歴史、イギリス文学、英語圏文学、アイヌ文学  |                               |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標     | <p>本科目は、人と社会について学ぶ学生に対し、社会を反映するものとして文学という視点を提供する。産業革命の発端として工学との関係の深いイギリスの文学を主な対象としつつ、本学の地域的特質を鑑みアイヌ文学にも触れる。それぞれ代表的な作品や作家とその特徴を理解し、それらとその時代の社会的背景・思想との関連等を説明できるようになることを到達目標とする。</p> |                               |        |      |     |
| 授業内容           | <p>イギリスの歴史に沿い、時代ごとの社会と文学を学ぶ。アイヌ文学は近代文学の中で取り扱う。</p> <p>第1回～第4回 先史時代から中世まで<br/> 第5回～第7回 近世前半<br/> 第8回～第10回 近世後半<br/> 第11回～第14回 19世紀までの近代<br/> 第15回 20世紀以降の近代から現代へ</p>                |                               |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法  | スライド資料を用いた講義形式   |                               |        |      |     |
| 教材・教科書         | 『イギリス文学史』川崎寿彦・著、成美堂  |                               |        |      |     |
| 参考文献           | 『イギリス文学入門 新版』石塚久郎・責任編集、三修社   |                               |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準   | 講義内容に基づき、小テストを4回程度行う。小テストの合計100点満点中、60点以上を合格とする。   |                               |        |      |     |
| 必要な授業外学修履修上の注意 | 教科書の次回範囲を読んでおくこと。また講義スライドを見直して理解を深めること。  |                               |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)     | 文芸作品鑑賞   | 実務家教員担当                       |        | —    |     |
| その他の           | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】                   |        |      |     |
|                | 連絡先・オフィスアワー  | shtakagi@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |
| 他              | コメント   |                               |        |      |     |

|               |   |   |        |      |     |
|---------------|---|---|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング                                | 313010 |      |     |
| 科目名(英訳)       | 美術の歴史(HISTORY OF FINE ARTS)   |   |        |      |     |
| 担当教員          | 野田由美意   |   |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年                                    | 学部1年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式          | 講義  | 受講人数                                    | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | 西洋美術の見方・美術と社会の関係  |   |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | 古代ギリシア・ローマ美術から、18世紀ロココ美術に至るまでの、西洋美術の歩みをたどり、西洋美術史の基礎知識を身につけます。それと同時に、美術とはいかなるもので、美術史とは何を研究する学問なのかを考えます。  |   |        |      |     |
| 授業内容          | 1. イントロダクション<br>2. 古代クレタ島の美術、古代ギリシア美術:アルカイック時代<br>3. 古代ギリシア美術:クラシック時代、ヘレニズム時代<br>4. 古代ローマ美術<br>5. 初期キリスト教美術<br>6. 西欧初期中世美術<br>7. ロマネスク美術、ゴシック美術<br>8. 初期ルネサンス美術<br>9. 盛期ルネサンス美術<br>10. マニエリスム美術<br>11. バロック美術:イタリア、フランドル<br>12. バロック美術:スペイン、フランス<br>13. ルネサンス美術・バロック美術の用語解説<br>14. ロココ美術<br>15. まとめ |   |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義。毎回パワーポイントで作品を映写し、レジュメを配布して講義を行います。   |   |        |      |     |
| 教材・教科書        | 石鍋真澄・千足伸行他『新西洋美術史』西村書店、1999年。   |   |        |      |     |
| 参考文献          | 高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年。<br>その他、適宜紹介します。  |   |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | テスト60点以上を合格とします。全授業回数の2/3以上出席しなければ、「出席不足」となります。<br>合格点に至らなかった場合、再試や再レポートは行いません。救済措置はありませんので、普段の授業をしっかりと学んでください。   |   |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 授業で習ったことを復習、特に興味を持ったことについて積極的に図書館等を使って調べてください。それが最終的によい成績を取ることに繋がります。   |   |        |      |     |
| 履修上の注意        | 授業をしっかりと受けてください。  |   |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 芸術と社会   | 実務家教員担当                                 |        | ○    |     |
| その他の          | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】                             |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | メールで連絡してください。ynoda@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |
|               | コメント  |   |        |      |     |

|               |   |                              |        |         |     |
|---------------|---|------------------------------|--------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング                     | 313011 |         |     |
| 科目名(英訳)       | ポピュラーカルチャー論(POPULAR CULTURES)   |                              |        |         |     |
| 担当教員          | 春木有亮  |                              |        |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年                         | 学部2年次  | 単位数     | 2単位 |
| 講義形式          | 講義  | 受講人数                         | なし     | 開講時期    | 前期  |
| キーワード         | アート、芸術、感性、哲学、美学、音、音楽、ブルーズ、カントリー、フォーク、ジャズ、ロックンロール、ロック、フォスター、ビートルズ、ボブ・ディラン、性、戦争、暴力、差別、男、女、資本主義、量産、反権力   |                              |        |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>概要:なぜ「音痴」でも、音楽を楽しむことができるのか。それは一つの音、一つの曲が、楽譜で表される以上の多彩な「イメージ」をまとっているからです。たとえばOfficial髭男ismの歌を聴くときに、メンバーの顔や肢体を思い浮かべないことは、むずかしい。ぼくらはつねに、いま聴いている音のなかに、その音以上のなにかを聴く、どころかなにかを見てさいます。音にまわりつくイメージを味わっているわけです。なぜ、カフェやバーには、よく「ジャズ」が流れているのか。《カントリー・ロード》の「カントリー」とは、どこなのか。なぜ「ロック」と言えば、「熱(苦しい)い」のか。そんな問いを軸に、アメリカのポピュラー音楽の成立の過程を、膨大な映像資料とともに紹介します。*生演奏あり。</p> <p>達成目標:生きるとはどういうことか、よく生きるとはどういうことか、世界とはなんであるか、を問うこと、ほか補足資料参照。</p>  |                              |        |         |     |
| 授業内容          | <p>第1回:なぜ「音痴」でも「音楽」をたのしめるのか。</p> <p>第2回:なぜフォスターは、黒人をさげすんだり、さげすまなかったり、するのか。</p> <p>第3回:なぜ「ブルーズ」は、しぶいのか。1</p> <p>第4回:なぜ「ブルーズ」は、しぶいのか。2</p> <p>第5回:《カントリー・ロード》は「カントリー」か。</p> <p>第6回:なぜ「フォーク」歌手は、貧乏くさいのか。</p> <p>第7回:なぜ「ジャズ」はおしゃれなのか。なぜしばしば大学には「ジャズ研」があるか。1</p> <p>第8回:なぜ「ジャズ」はおしゃれなのか。なぜしばしば大学には「ジャズ研」があるか。2</p> <p>第9回:なぜ「ロックンロール」は、おっさんくさいのか。</p> <p>第10回:なぜ「ロック」は、かっこよくて、ださいのか。1:ビートルズとは、なにか。</p> <p>第11回:なぜ「ロック」は、かっこよくて、ださいのか。2:ビートルズとは、なにか。</p> <p>第12回:なぜ「ロック」は、かっこよくて、ださいのか。3:ボブ・ディランとは、だれか。</p> <p>第13回:なぜ「シンガー・ソングライター」は、しょうもないのか。:ピアノ・マンとギター少女</p> <p>第14回:なぜ「ディスコ」はチャライのか。:ギターの衰退と1980年代</p> <p>第15回:なぜラッパーは、「やばい」のか。ドレスダウンと:「アコースティック」の1990年代</p> |                              |        |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 話す。書く。描く。歌う。踊る。   |                              |        |         |     |
| 教材・教科書        |   |                              |        |         |     |
| 参考文献          | 春木有亮『実在のノスタルジー—スーリオ美学の根本問題』、大和田俊之『アメリカ音楽史—ミンストレル・ショー、ブルースからヒップホップまで』ほか、授業中に紹介します。   |                              |        |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | <p>授業に対するレスポンス(贈りかえす力)を評価します。授業では、めくるめくポピュラーカルチャーの世界、感性文化の世界を味わっていただくために、講師がさまざまな話や資料をみなさんに贈り届けます。講師がみなさんに贈るものをどのように受けとり、吟味し、評価、批判したかを、講師に贈りかえしてください。贈りかえすさいの形式は自由です。論文、批評、エッセイなどがスタンダードですが、詩、絵、ダンス、歌など、でもよいです。みなさんそれぞれが、「これだ」と思う形式を案出してください。よりくわしくは、授業で説明します。</p>  |                              |        |         |     |
| 必要な授業外学修      | 授業中に紹介したものに積極的にアクセスいただければありがたいです。   |                              |        |         |     |
| 履修上の注意        | オンラインの回には、配信用urlをお知らせするので、第1回の前にコースパワーメッセージをチェックしてください。授業では、戦争、犯罪、暴力、性にかかわる資料、ことばを用います。このページにはすべてを書いてはいません。授業で配る補足資料を、あわせてお読みください。  |                              |        |         |     |
| 関連科目(発展科目)    | 「芸術の冒険」、「美学の世界」(発展科目)   |                              |        | 実務家教員担当 | ○   |
| その他           | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】                  |        |         |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | haruki@mail.kitami-it.ac.jp  |        |         |     |
|               | コメント  | みなさんそれぞれとの「出会い」をたのしみにしております。 |        |         |     |

|                   |  |  |        |      |     |
|-------------------|--|--|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属         | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング   | 313012 |      |     |
| 科目名(英訳)           | 科学技術論(SCIENCE AND TECHNOLOGY)  |  |        |      |     |
| 担当教員              | 山田健二   |  |        |      |     |
| 科目区分              | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年   | 学部2年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式              | 演習   | 受講人数   | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード             | 科学と社会、科学コミュニケーション  |  |        |      |     |
| 授業の概要・<br>達成目標    | <p>授業の概要</p> <p>本授業科目は工学者としての総合的素養を涵養するための基礎科目であり、身の回りのテクノロジーについて、その技術的背景を正確に理解し、また人間社会に対するインパクトという観点から批判的に検討できる論理的思考を養うことを目標としている。この科目では特に、反転学習の手法を取り入れ、指定したテーマで各自事前学習の上、その成果を論理明晰で説得力あるプレゼンテーションにまとめ、わかりやすく発表することを目指す。</p> <p>授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術を人間社会の関わりという観点から捉えることができ、問題点等を分析することができる。</li> <li>・論点をプレゼンテーション資料に的確にまとめることができる。</li> <li>・積極的にディスカッションに参加し、明確に意見を述べるができる。</li> </ul> |  |        |      |     |
| 授業内容              | <p>第1回:オリエンテーション(授業の進め方、発表割り当て)</p> <p>第2回:学生発表(1)</p> <p>第3回:学生発表(2)</p> <p>第4回:学生発表(3)</p> <p>第5回:学生発表(4)</p> <p>第6回:学生発表(5)</p> <p>第7回:学生発表(6)</p> <p>第8回:学生発表(7)</p> <p>第9回:学生発表(8)</p> <p>第10回:学生発表(9)</p> <p>第11回:学生発表(10)</p> <p>第12回:学生発表(11)</p> <p>第13回:学生発表(12)</p> <p>第14回:学生発表(13)</p> <p>第15回:総括</p> <p>なお、受講者数に応じて、講師による話題提供を適宜挿入する</p>   |  |        |      |     |
| 授業形式・形態<br>及び授業方法 | 受講者による発表と質疑  |  |        |      |     |
| 教材・教科書            | 使用しない  |  |        |      |     |
| 参考文献              | 授業中に適宜紹介する   |  |        |      |     |
| 成績評価方法<br>及び評価基準  | 発表内容(4割)、出席態度(4割)、質疑への参加度合い(2割)。全体の60%以上の得点で合格とする。   |  |        |      |     |
| 必要な授業外学修          | 発表担当者は十分準備をして授業に臨むこと。授業後の課題について、各自他の受講者の発表内容をよく吟味したうえ、誠実にとりくむこと  |  |        |      |     |
| 履修上の注意            | 無断での途中入退中は禁止   |  |        |      |     |
| 関連科目<br>(発展科目)    | テクノロジーの倫理  | 実務家教員担当  |        | —    |     |
| その<br>他           | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】  |        |      |     |
|                   | 連絡先・オフィスアワー<br>コメント  | 山田健二研究室(0157-26-9549, yamadake@mail.kitami-it.ac.jp)<br>質問は随時受け付ける |        |      |     |

|               |   |                             |        |      |     |
|---------------|---|-----------------------------|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング                    | 313013 |      |     |
| 科目名(英訳)       | 健康とスポーツ科学(HEALTH AND SPORTS SCIENCE)  |                             |        |      |     |
| 担当教員          | 柳 等   |                             |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年                        | 学部2年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式          | 演習  | 受講人数                        | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | 健康 体力 スポーツ科学 身体運動 スポーツパフォーマンス トレーニング  |                             |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | スポーツや運動中の身体のはたらきを学び、スポーツ活動を安全にかつ効果的に実施するにはどのようにすればよいかを理解するとともに、スポーツトレーニングを実践する。授業の到達目標として、筋のエネルギー供給機構を理解し、ウォームアップやクールダウン、スポーツトレーニングの方法を説明できるようになることを目指す。  |                             |        |      |     |
| 授業内容          | 第1回「スポーツ生理学とは」<br>第2回「12分間走および50m走テスト」<br>第3回「筋のエネルギー供給機構」<br>第4・5回「ウォームアップとクールダウン」<br>第6・7回「筋の構造と活動様式」<br>第8回「筋線維タイプとスポーツ」<br>第9・10回「無酸素性トレーニング」<br>第11・12回「レジスタンストレーニング」<br>第13回「20mシャトルランテスト」<br>第14・15回「有酸素性トレーニング」 |                             |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義および実技(運動・身体トレーニングの実践)。<br>講義はPCプロジェクターと配付資料で行う。<br>講義毎に課題を提出してもらい、次回の講義でその課題について発表してもらい、運動の実践(実技)として、スポーツトレーニング等を行ってもらい。  |                             |        |      |     |
| 教材・教科書        | 配付資料  |                             |        |      |     |
| 参考文献          | 別途指示する  |                             |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 講義ごとに提出する課題(80点満点)課題の発表(10点満点)、トレーニングでの課題(10点満点)の合計点(100点満点)で評価する。合計点60点以上を合格とする。   |                             |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 専門用語の意味を調べて理解しておく。  |                             |        |      |     |
| 履修上の注意        | 授業に関係ない携帯電話の使用を禁止する。<br>運動の実践の際は、スポーツに適したウェアとシューズを着用すること。<br>運動の実践は真面目に取り組むこと。  |                             |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 健康科学  | 実務家教員担当                     |        | —    |     |
| その他の          | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】                 |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | yanagi@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |
|               | コメント  |                             |        |      |     |

|               |   |  |        |      |     |
|---------------|---|--|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング   | 313014 |      |     |
| 科目名(英訳)       | 現代言語学(MODERN LINGUISTICS)   |  |        |      |     |
| 担当教員          | 戸澤隆広  |  |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年   | 学部2年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式          | 演習  | 受講人数   | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | 生成文法  |  |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | 人間がことばを話したり、理解できるのは、生得的に普遍文法を備えているからである。普遍文法の説明を目指す言語理論を生成文法理論という。この授業では生成文法理論の視点から言語現象を考察する。授業の到達目標及びテーマは(i)言語現象の背後にある規則性を見つけ出す、(ii)言語現象の基本的な分析方法を理解する、(iii)言語現象を科学的に考察することで論理的思考法を身につける、以上の3点である。適宜、学生にはテキストの内容をまとめ、口頭発表してもらう。学生は入念な予習・復習を行う必要がある。  |  |        |      |     |
| 授業内容          | 第1回: 導入<br>第2回: 言語知識<br>第3回: 言語獲得の論理的問題<br>第4回: 普遍文法<br>第5回: 文法モデル<br>第6回: 音声学・音韻論(1): 音声器官<br>第7回: 音声学・音韻論(2): 弁別素性<br>第8回: 音声学・音韻論(3): 音節の構造<br>第9回: 形態論(1): 複合名詞の繰り返し性<br>第10回: 形態論(2): 右側主要部の規則<br>第11回: 形態論(3): 接辞化<br>第12回: 統語論(1): 句構造規則<br>第13回: 統語論(2): 変形規則<br>第14回: 統語論(3): 変形規則に課される制約<br>第15回: まとめ |  |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義及び演習形式。   |  |        |      |     |
| 教材・教科書        | 授業開始時に指示する。   |  |        |      |     |
| 参考文献          | なし  |  |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 全ての授業が終わった後に、レポートを課す。100点満点中60点以上で合格とする。  |  |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 予習・復習をする。   |  |        |      |     |
| 履修上の注意        | 1年次後期に「言語の構造と機能」を履修していることが望ましい。   |  |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 言語の構造と機能  | 実務家教員担当  |        | 一    |     |
| その他の          | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】  |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | 戸澤隆広(電話:0157-26-9551, メール:tozawata@mail.kitami-it.ac.jp) |        |      |     |
|               | コメント  |  |        |      |     |

|               |   |  |        |      |     |
|---------------|---|--|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング   | 313015 |      |     |
| 科目名(英訳)       | 芸術と社会(ART AND SOCIETY)  |  |        |      |     |
| 担当教員          | 野田由美意   |  |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年   | 学部2年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式          | 演習  | 受講人数   | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | 西洋近代美術史(18世紀末の新古典主義から20世紀初頭の表現主義までの西洋近代美術の見方・論じ方を学ぶ)  |  |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>概要</p> <p>毎回、次のような流れで授業を展開します。(1)教員がそれぞれの時代の絵画が誕生した文化的、社会的背景を説明します。(2)パワーポイントを使用して、いくつかの作品図版を見せます。(3)履修者は個々の作品について重要と思われる点を記述し、作品分析の方法を習得します。(4)指定した作品について、皆さんが意見を述べ、最終的に教員が包括して解説します。</p> <p>達成目標</p> <p>西洋の近代絵画を例にとりながら、絵画作品の見方、論じ方を学びます。時代によって表現形式・内容の変化がいかに、またなぜ起こったのかを考えます。また他の人の意見を聞くことで、作品を見る際、どのような視点があり得るのかの視野を広げます。</p>  |  |        |      |     |
| 授業内容          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション: 授業の説明</li> <li>2. 新古典主義: 講義</li> <li>3. 新古典主義: 作品記述、ディスカッションと講義</li> <li>4. ロマン主義: 講義</li> <li>5. ロマン主義: 作品記述、ディスカッションと講義</li> <li>6. リアリズム: 講義</li> <li>7. リアリズム: 作品記述、ディスカッションと講義</li> <li>8. 印象主義: 講義</li> <li>9. 印象主義: 作品記述、ディスカッションと講義</li> <li>10. ポスト印象主義: 講義</li> <li>11. ポスト印象主義: 作品記述、ディスカッションと講義</li> <li>12. 象徴主義: 講義</li> <li>13. 象徴主義: 作品記述、ディスカッションと講義</li> <li>14. 表現主義: 講義</li> <li>15. 表現主義: 作品記述、ディスカッションと講義</li> </ol> |  |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 座学、講義を中心に、作品記述やディスカッションのような演習も加わる。  |  |        |      |     |
| 教材・教科書        | 石鍋真澄・千足伸行他『新西洋美術史』西村書店、1999年、2800円+税  |  |        |      |     |
| 参考文献          | 高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年、1900円+税<br>末永照和監修『カラー版 20世紀の美術』美術出版社、2000年、2500円+税 その他、適宜紹介します。   |  |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | レポート10割で評価します。全体得点の60%以上取得で合格とします。全授業回数の2/3以上出席しなければ、「出席不足」となります。合格点に至らなかった場合、再試や再レポートは行いません。救済措置はありませんので、普段の授業をしっかりと学んでください。   |  |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 毎授業で学んだことを復習してください。特に興味を持ったことについては、積極的に図書館等を使って調べてください。それが、最終的によいレポートを作るにつながります。  |  |        |      |     |
| 履修上の注意        | 授業で興味を持った事柄について、図書館等を利用して調べましょう。また、展覧会に行って、実際の作品を見ることを勧めます。   |  |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 美術の歴史   | 実務家教員担当  | ○      |      |     |
| その他           | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】  |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | メールかコースパワーのお知らせ機能で連絡してください。メールアドレス: ynoda@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |
|               | コメント  |  |        |      |     |

|               |  |  |        |      |     |
|---------------|--|--|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング   | 313016 |      |     |
| 科目名(英訳)       | 文芸作品鑑賞(APPRECIATION OF LITERARY WORKS)   |  |        |      |     |
| 担当教員          | 青木 愛美  |  |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年   | 学部2年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式          | 演習   | 受講人数   | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | 英文学、テキスト精読、作品理解  |  |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>授業概要<br/>英語の文学作品を読むために必要な文法、語法などを確認しながら、テキストを精読する。作品の背景知識や内包するイメージをもとに作品論を展開し、理解を深める。</p> <p>達成目標<br/>英文を正確に理解できるようになること。作品についての自分の解釈を論理的に説明できるようになること。</p>   |  |        |      |     |
| 授業内容          | <p>第1回:イントロダクション(授業方法の説明)<br/> 第2回:テキストの精読(1)<br/> 第3回:テキストの精読(2)<br/> 第4回:テキストの精読(3)<br/> 第5回:テキストの精読(4)<br/> 第6回:テキストの精読(5)<br/> 第7回:テキストの精読(6)<br/> 第8回:口頭発表(1)<br/> 第9回:テキストの精読(7)<br/> 第10回:テキストの精読(8)<br/> 第11回:テキストの精読(9)<br/> 第12回:テキストの精読(10)<br/> 第13回:テキストの精読(11)<br/> 第14回:テキストの精読(12)<br/> 第15回:口頭発表(2)</p> |  |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義と演習。作品解釈についてのグループディスカッション及び口頭発表も行う。  |  |        |      |     |
| 教材・教科書        | 授業開始時に指示する。  |  |        |      |     |
| 参考文献          | なし   |  |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 口頭発表(60%)とレポート(40%)で評価し、総合点60点以上(100点満点)を合格とする。  |  |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 講義後は資料を読み直すなどして復習すること。   |  |        |      |     |
| 履修上の注意        | 5回欠席で不合格とする。   |  |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 世界の文学  | 実務家教員担当  |        | —    |     |
| その他           | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】  |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー  | オフィスアワーは初回講義でお伝えします。何かあればご連絡ください(青木:e-aoki@mail.kitami-it.ac.jp) |        |      |     |
|               | コメント   |  |        |      |     |

|               |  |                              |        |         |     |
|---------------|--|------------------------------|--------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング                     | 313017 |         |     |
| 科目名(英訳)       | 美学の世界(THE WORLD OF AESTHETICS)   |                              |        |         |     |
| 担当教員          | 春木有亮   |                              |        |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年                         | 学部2年次  | 単位数     | 2単位 |
| 講義形式          | 演習   | 受講人数                         | なし     | 開講時期    | 後期  |
| キーワード         | かっこいい かわいい 感性、性、戦争、暴力、芸術、哲学、美学、少女、まんが、マンガ、漫画、アニメ、萌え、高度経済成長、大衆  |                              |        |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>概要:「かっこいい」と「かわいい」。これら二つのことばは、ある時期に大流行し、現在、高い使用頻度と汎用性を得るにいたっている。が、それがいったいなにを表しているのか、的確に言いあてるのは容易ではない。五条悟がかっこいいとか、今田美桜がかわいい、と断言できるとしても、なぜそうなのかを説明するのはむずかしい。</p> <p>それは「かっこいい」も「かわいい」もともに、ある「感じ」を表しているからだ。つまり、そもそも「ことばでうまく言い表しにくいもの」を表すことばだということだ。そういういわば、ことばらしくないことばを使うとき、ぼくらに、世界に、なにが起こっているのか。「かっこいい」と「かわいい」の歴史を追いながら、感じることから開ける世界のありさまを、描き出す。</p> <p>達成目標: 生きるとはどういうことか、よく生きるとはどういうことか、世界とはなんであるか、を問うことほか、補足資料を参照。</p>  |                              |        |         |     |
| 授業内容          | <p>第1回:なぜ美人は、好かれつつ、嫌われるのか。</p> <p>第2回:「恰好がよい」から「かっこいい」へ</p> <p>第3回:流行語である「かっこいい」I—無責任と無秩序</p> <p>第4回:流行語である「かっこいい」II—はやい、強い、新しい、</p> <p>第5回:「かっこいい」は「かっこいいわい」—1970年代の「敗北」</p> <p>第6回:「かっこいい」と「はずし」—1980年代の差異化のゲーム</p> <p>第7回:「かっこわるい」は「かっこいい」—『紅の豚』と1990年代のターニング</p> <p>第8回:「かわいい」、「いつくし」、「うつくし」</p> <p>第9回:「子ども」から「母」へ—1960年代の子ども雑誌、婦人雑誌</p> <p>第10回:全方位からの愛—1970年代の「嫁」と「姑」</p> <p>第11回:「かわいい」「わたし」—「少女」の世界I</p> <p>第12回:「かわいい」「わたし」—「少女」の世界II</p> <p>第13回:「カワイイは、つくれる」か—「かわいい」vs「美しい」</p> <p>第14回:エコかっこいい/エコかわいい、エコかっこいい/エコかわいい</p> <p>第15回:「かっこいい」生きかたと「かわいい」生きかた—類比と類似</p> |                              |        |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 話す。書く。描く。歌う。踊る。  |                              |        |         |     |
| 教材・教科書        |  |                              |        |         |     |
| 参考文献          | 春木有亮『実在のノスタルジー スーリオ美学の根本問題』ほか、授業中に紹介します。   |                              |        |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | <p>授業に対するレスポンス(贈りかえす力)を評価します。授業では、「かっこいい／かわいい」の世界、感性文化の世界を味わっていただくために、講師がさまざまな話や資料をみなさんに贈り届けます。それらをどのように受けとり、吟味し、評価、批判したかを、講師に贈りかえしてください。贈りかえすさいの形式は自由です。論文、批評、エッセイ、詩、絵、ダンス、歌など、なんでもよいです。みなさんそれぞれが、「これだ」と思う形式を案出してください。よりくわしくは、授業で説明します。</p>   |                              |        |         |     |
| 必要な授業外学修      | 授業中に紹介したものに積極的にアクセスいただければありがたいです。  |                              |        |         |     |
| 履修上の注意        | オンラインの回には配信用urlをお知らせするので、第1回の前にコースパワーメッセージをチェックしてください。授業では、戦争、犯罪、暴力、性にかかわる資料、ことばを用います。また、授業で配る補足資料をあわせてお読みください。  |                              |        |         |     |
| 関連科目(発展科目)    | 「ポピュラーカルチャー論」、「芸術の冒険」、「倫理学入門」  |                              |        | 実務家教員担当 | ○   |
| その他           | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】                  |        |         |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー  | haruki@mail.kitami-it.ac.jp  |        |         |     |
|               | コメント   | みなさんそれぞれとの「出会い」をたのしみにしております。 |        |         |     |

|               |  |                                 |        |      |     |
|---------------|--|---------------------------------|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング                        | 313018 |      |     |
| 科目名(英訳)       | 身体運動の科学(SCIENCE OF HUMAN MOVEMENT)   |                                 |        |      |     |
| 担当教員          | 中里 浩介  |                                 |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年                            | 学部2年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式          | 演習   | 受講人数                            | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | スポーツ科学 身体運動 バイオメカニクス 運動生理学   |                                 |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | 身体運動を科学的に捉える力を身に付け、演習を通じて測定方法の理解を深める。様々な身体運動を科学的に説明でき、科学的手法に基づいた計測・評価ができることが到達目標である。   |                                 |        |      |     |
| 授業内容          | 第1回: 授業計画・概要の説明<br>第2回: 科学的思考<br>第3回: 身体組成の計測法(講義)<br>第4回: 身体組成の計測法(演習)<br>第5回: 筋力の計測法(講義)<br>第6回: 筋力の計測法(演習)<br>第7回: パワーの計測法(講義)<br>第8回: パワーの計測法(演習)<br>第9回: 動作分析法(講義)<br>第10回: 動作分析法【データの収集】(演習)<br>第11回: 動作分析法【数値微分による速度・加速度】(演習)<br>第12回: 動作分析法【データのまとめ方】(演習)<br>第13回: 様々な身体運動の科学(講義)<br>第14回: 様々な身体運動の科学(演習)<br>第15回: 身体運動の科学のまとめ |                                 |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義と演習(身体運動の実践)<br>身体運動の実践として、簡単な計測をおこなってもらう。<br>講義はPCとプロジェクターを用いて行う。講義資料は講義毎に配布する。   |                                 |        |      |     |
| 教材・教科書        | 配布資料   |                                 |        |      |     |
| 参考文献          | 別途指示する   |                                 |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 講義内でのレポート課題(30%)+レポート試験(70%)とで評価し、60点以上で合格とする。   |                                 |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 専門用語の意味を調べて理解しておく。   |                                 |        |      |     |
| 履修上の注意        | 演習の際は運動に適した服装(ウェア・シューズ)を着用すること。<br>授業中の私語、および他の学生に迷惑となる行為は禁止する。<br>教員の指示が無い限り、携帯電話の使用を禁止する。  |                                 |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 体育実技I・II<br>スポーツ測定学  | 実務家教員担当                         |        | —    |     |
| その他の          | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】                     |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー  | k-nakazato@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |
|               | コメント   |                                 |        |      |     |

|               |  |                                   |        |         |     |
|---------------|--|-----------------------------------|--------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング                          | 313019 |         |     |
| 科目名(英訳)       | 国際関係論(INTERNATIONAL RELATIONS)   |                                   |        |         |     |
| 担当教員          | 小野 真嗣  |                                   |        |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年                              | 学部2年次  | 単位数     | 2単位 |
| 講義形式          | 演習   | 受講人数                              | なし     | 開講時期    | 後期  |
| キーワード         | 国家、市民、安全保障、国際経済、労働問題、国際協力、グローバル化   |                                   |        |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | 本授業科目は、工学技術者としてグローバルに活躍できるように、国家間の政治、経済、社会問題等の多様な問題を取り上げ、国際社会と日本との関連性を理解する。そのために、複眼的視点で全体を把握すると共に、的確に問題を分析するための視野を身につけることを目指す。     |                                   |        |         |     |
| 授業内容          | 第1回～第3回 世界の歴史の変遷について<br>第4回～第6回 世界の経済について<br>第7回 中間まとめ<br>第8回～第10回 世界の労働問題について<br>第11回～第13回 国際協力について<br>第14回 日本の現状について<br>第15回 まとめ |                                   |        |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 毎週テーマごとにグループ発表を行い、その後全員参加型の討論を行う。  |                                   |        |         |     |
| 教材・教科書        | プリント   |                                   |        |         |     |
| 参考文献          | なし   |                                   |        |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 口頭発表30%、討論20%、レポート50%で評価し、60点以上を合格とする。   |                                   |        |         |     |
| 必要な授業外学修      | 授業30時間の他、60時間の予習・復習を行うこと。  |                                   |        |         |     |
| 履修上の注意        | 関連資料を精読し、授業に臨むこと。1/3以上欠席した学生は、試験を受けることができない。但し、正当な理由がある場合は、この限りではない。   |                                   |        |         |     |
| 関連科目(発展科目)    |  |                                   |        | 実務家教員担当 | ○   |
| その他の          | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】                       |        |         |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー  | 小野真嗣 onomasa@mail.kitami-it.ac.jp |        |         |     |
|               | コメント   | 新聞の社会面やテレビの国際関係のニュースに関心を持ってほしい。   |        |         |     |

|               |   |   |        |      |     |
|---------------|---|---|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング  | 313020 |      |     |
| 科目名(英訳)       | 地域産業振興論(THEORY OF REGIONAL INDUSTRY DEVELOPMENT)  |   |        |      |     |
| 担当教員          | 三枝 昌弘, 片岡 沙都紀   |   |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年  | 学部2年次  | 単位数  | 2単位 |
| 講義形式          | 演習  | 受講人数  | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | 高度経済成長、バブル景気、国内総生産(GDP)、デフレ、所得格差、環境問題、まちづくり、地方創生  |   |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | 本授業科目は、日本経済を読み解くために必要となる基礎知識を修得することを目的とし、現代の日本経済が市場経済を基礎としていることや、市場メカニズムとはどのようなものか、特に戦後の日本経済史、暮らしの中の経済、企業・産業・金融の動き、景気と物価、財政金融政策について理解することを到達目標とする。  |   |        |      |     |
| 授業内容          | 第1回 : ガイダンス/日本経済へのアプローチ<br>第2回 : 高度経済成長<br>第3回 : バブル景気<br>第4回 : 労働市場の構造変化と所得格差<br>第5回 : 中小企業・ベンチャー企業の役割<br>第6回 : 産業構造の変化と日本経済の盛衰<br>第7回 : 環境・エネルギー問題の克服<br>第8回 : まちづくりと地方創生<br>第9回 : まちづくりとDX<br>第10回 : 地域ブランド(概念)<br>第11回 : 地域ブランド(戦略)<br>第12回 : 地域の産業特性と課題<br>第13回 : 地域技術を生かしたイノベーション<br>第14回 : 地域交通・デジタル化がもたらす産業変革<br>第15回 : まとめ |   |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義形式を基本とする。   |   |        |      |     |
| 教材・教科書        | 『日本経済論』宮川努/細野薫/細谷圭/川上淳之、中央経済社   |   |        |      |     |
| 参考文献          | 必要に応じて都度紹介する。   |   |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 7割以上出席した学生にのみ成績評価を行う。<br>成績評価は講義時の課題(ワークシート・演習等)の提出と内容70点、理解度テスト30点で、合計60点以上を合格とする。   |   |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 毎回の授業で学び得た事項(専門用語などを含む)を整理し所感をまとめること。   |   |        |      |     |
| 履修上の注意        | 学習効果を高めるため、積極的な授業参画を心がけること。   |   |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 経営学、ベンチャー企業論(マネジメント工学ユニット発展科目)  | 実務家教員担当   | ○      |      |     |
| その他           | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】   |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | 三枝昌弘 E-mail: a-saegusa@mail.kitami-it.ac.jp<br>片岡沙都紀 E-mail: skataoka@mail.kitami-it.ac.jp<br>オフィスアワー: 随時(在室時は随時。事前に連絡することが望ましい。) |        |      |     |
|               | コメント  | 必要に応じ、授業外でも面談・メールなどで教員とコミュニケーションを図ること。  |        |      |     |

|               |  |  |        |         |     |
|---------------|--|--|--------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング   | 313021 |         |     |
| 科目名(英訳)       | TOEIC II(TOEIC II)   |  |        |         |     |
| 担当教員          | 戸澤 隆広, 青木 愛美<br>高城 翔平, 鈴木 舞彩<br>その他  |  |        |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年   | 学部2年次  | 単位数     | 1単位 |
| 講義形式          | 演習   | 受講人数   | なし     | 開講時期    | 後期  |
| キーワード         | 英語検定試験(TOEIC)  |  |        |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | 英語は国際的なコミュニケーションのために必要不可欠である。本授業では、国内外で工学士として活躍するにふさわしい英語能力を養うことを目指す。TOEIC Iで身につけた応用力をさらに高めることで、TOEICで高得点を獲得する力を涵養する。読解では、速読のスキルを学ぶことで、大量の英文を正確に読みこなす能力を身につける。リスニングでは、シャドーイングやディクテーションの訓練を行うことで単語間の連結や脱落のパターンを身につける。適宜、文法の復習を行うことでライティングとスピーキングの能力を養う。   |  |        |         |     |
| 授業内容          | 第1回:TOEIC問題演習1 シャドーイング、ディクテーション<br>第2回:TOEIC問題演習2 シャドーイング、ディクテーション、文法事項の復習<br>第3回:TOEIC問題演習3 シャドーイング、ディクテーション、文法事項の復習<br>第4回:TOEIC問題演習4 シャドーイング、ディクテーション、文法事項の復習<br>第5回:TOEIC問題演習5 シャドーイング、ディクテーション、文法事項の復習<br>第6回:TOEIC問題演習6 シャドーイング、ディクテーション、文法事項の復習<br>第7回:TOEIC問題演習7 シャドーイング、ディクテーション、文法事項の復習<br>第8回:TOEIC問題演習8 シャドーイング、ディクテーション、文法事項の復習<br>第9回:TOEIC問題演習9 シャドーイング、ディクテーション、英文暗唱<br>第10回:TOEIC問題演習10 シャドーイング、ディクテーション、英文暗唱<br>第11回:TOEIC問題演習11 シャドーイング、ディクテーション、英文暗唱<br>第12回:TOEIC問題演習12 シャドーイング、ディクテーション、英文暗唱<br>第13回:TOEIC問題演習13 シャドーイング、ディクテーション、英文暗唱<br>第14回:TOEIC問題演習14 シャドーイング、ディクテーション、英文暗唱<br>第15回:TOEIC問題演習15 シャドーイング、ディクテーション、英文暗唱 |  |        |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 学生による演習(TOEICの問題を解く、英語を日本語に訳す、など)と、教員による解説。  |  |        |         |     |
| 教材・教科書        | 授業開始時に指示する。  |  |        |         |     |
| 参考文献          | 特に指定はしないが、必ず英和辞典を持参すること。   |  |        |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 授業内容にもとづいた試験を課し、60%以上の得点で合格とする。  |  |        |         |     |
| 必要な授業外学修      | 予習・復習をする。  |  |        |         |     |
| 履修上の注意        | 演習授業であるため、学生の積極的な授業参加が求められる。   |  |        |         |     |
| 関連科目(発展科目)    | 英語基礎I、英語基礎II、TOEIC I   |  |        | 実務家教員担当 | —   |
| その他           | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】  |        |         |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー  | 戸澤隆広(電話:0157-26-9551, メール:tozawata@mail.kitami-it.ac.jp)<br>青木愛美(電話:0157-26-9543, メール:e-aoki@mail.kitami-it.ac.jp)<br>高城翔平(電話:0157-26-9540, メール:shtakagi@mail.kitami-it.ac.jp)<br>鈴木舞彩(電話:0157-26-9504, メール:mayasuzuki@mail.kitami-it.ac.jp) |        |         |     |
|               | コメント   | この科目は全分野の同時開講科目である。実施内容の詳細については各担当教員が授業第1回目に説明する。  |        |         |     |

|               |  |                             |        |      |     |
|---------------|--|-----------------------------|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング                    | 313022 |      |     |
| 科目名(英訳)       | Critical English Communication(CRITICAL ENGLISH COMMUNICATION)   |                             |        |      |     |
| 担当教員          | Jennifer Claro   |                             |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年                        | 学部2年次  | 単位数  | 1単位 |
| 講義形式          | 演習   | 受講人数                        | 50名    | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | Critical studies, English communication, world events, technology, culture, multiple views, understanding the world, empowerment, knowledge building   |                             |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | The goal of this course is for students to improve their English communication skills and develop critical thinking skills. Students learn new vocabulary and practice English conversation in pairs and groups. Rather than one-sided knowledge transfer, students examine important international issues from multiple perspectives, building knowledge and developing critical thinking skills.   |                             |        |      |     |
| 授業内容          | <p>Week 1: Course Introduction, meet partner and group members, practice speaking conversational English</p> <p>Weeks 2 and 8: Topic = Technology 1 and 2 - Watch a video about emerging technology . Learn relevant vocabulary and discuss positive and negative aspects of high tech.</p> <p>Weeks 3 and 9: Topic = Social Issues 1 and 2 - Watch a video about one or more Japanese and international social issues. Learn relevant vocabulary and discuss various aspects of these topics.</p> <p>Weeks 4 and 10: Topic = International Power Structures 1 and 2: Who controls the world? What power structures exist, and how much power do individuals have to make the world a better place?</p> <p>Weeks 5 and 11: Topic = Mainstream news and alternative news/social media 1 and 2: Useful websites and translation tools for translating English news videos and news sites to Japanese.</p> <p>Week 6: Topic = Critical thinking and multiple perspectives: Skills for understanding world news.</p> <p>Week 7: Students choose presentation topic (Presentation Day is in Week 14).</p> <p>Week 8: See Week 2</p> <p>Week 9: See Week 3</p> <p>Week 10: See Week 4</p> <p>Week 11: See Week 5</p> <p>Week 12: Vocabulary review, review of presentation skills, prepare for Presentation Day in Week 14</p> <p>Week 13: Course review and how students can continue to improve critical thinking skills and understand world news after the course ends.</p> <p>Week 14: Presentation Day</p> <p>Week 15: Graded Soccer English</p> |                             |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | There will be a lot of pairwork and groupwork. Classes will be active, with students active most of the time. Passive listening by students will be rare.  |                             |        |      |     |
| 教材・教科書        | No textbook  |                             |        |      |     |
| 参考文献          |  |                             |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | Presentation 40%, group discussion 20%, class assignments 20%, vocabulary study 20%  |                             |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | Vocabulary study and review and preparation for the next class.  |                             |        |      |     |
| 履修上の注意        |  |                             |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | Critical pedagogy, technology, ethics, social issues, knowledge building   | 実務家教員担当                     | ○      |      |     |
| その他の          | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】                 |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスワー   | claro1@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |
| 他             | コメント   |                             |        |      |     |

|               |  |   |        |         |     |
|---------------|--|---|--------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング  | 313023 |         |     |
| 科目名(英訳)       | Oral English Communication(ORAL ENGLISH COMMUNICATION)   |   |        |         |     |
| 担当教員          | ボゼック・クリストファー・ジョン   |   |        |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年  | 学部2年次  | 単位数     | 1単位 |
| 講義形式          | 演習   | 受講人数  | 45名    | 開講時期    | 後期  |
| キーワード         | English, Conversation  |   |        |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>授業の概要</p> <p>Students will listen to recorded conversations covering subjects such as the talking on the telephone, talking about past events and attending events such as parties. They will answer questions pertaining to those conversations. Students will learn new vocabulary. Apart from the textbook, students will listen to one student, describe what he/she has done over their weekend and repeat those sentences to his/her partner. Each week students will do an activity that involves describing the differences between two pictures.</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>The goals of this course are to have students improve their listening and oral English skills and to actually speak some English in class each week.</p>   |   |        |         |     |
| 授業内容          | <p>Class 1:Explanation of rules, Rhyme review</p> <p>Class 2:Textbook Unit Nine, Find the Differences,</p> <p>Class 3:Sentence Memorization, Find the Differences</p> <p>Class 4:Textbook Unit Ten, Sentence Memorization</p> <p>Class 5:Textbook Unit Eleven, Family Tree activity</p> <p>Class 6:Family Tree, Dictation, Sentence Memorization</p> <p>Class 7:Family Tree Test, Textbook Unit Twelve, Find the Differences,</p> <p>Class 8: Family Tree activity, Sentence Memorization</p> <p>Class 9:Dictation, Textbook Unit Thirteen</p> <p>Class 10:Sentence Memorization, Dictation</p> <p>Class 11:Dictation, Textbook Unit Fourteen, Find the Differences</p> <p>Class 12:Sentence Memorization, Rhymes</p> <p>Class 13: Textbook Unit Fifteen, Find the Differences,</p> <p>Class 14:Dictation, Rhymes, Sentence Memorization</p> <p>Class 15:Find the Differences, Test Explanation, Questionnaire</p> |   |        |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | The method of this class will be for students to work with a partner. Students ask questions to their partner and listen to answers from their partner. Students create questions and answer questions about Mr. Bozek's family tree. In addition each student works individually outside of class to prepare written assignments and weekly homework.   |   |        |         |     |
| 教材・教科書        | Robert Hickling and Satsuki Osaki English Upload 金星堂<br>Christopher Bozek, Rhymes, 北見工大生協  |   |        |         |     |
| 参考文献          | 特になし   |   |        |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | <p>A numerical grade for the each student will be based on that student's attentiveness to and participation in classroom activities, timely completion of homework and tests and quizzes.</p> <p>授業への積極的な参加と中間テストと期末テスト60%</p> <p>ライティングの宿題、教科書の宿題、その他 40%</p>  |   |        |         |     |
| 必要な授業外学修      | <p>1. Students should do their weekly textbook homework.</p> <p>2. Students have to memorize specific family-related words.</p> <p>3. Students have to write and answer questions about Mr. Bozek's family tree.</p>   |   |        |         |     |
| 履修上の注意        | なし   |   |        |         |     |
| 関連科目(発展科目)    | Basic English Communication  |   |        | 実務家教員担当 | ○   |
| その他の          | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】   |        |         |     |
|               | 連絡先・オフィスワー   | ボゼック・クリストファー・ジョン(電話:0157-26-9557, メール:bozekch@mail.kitami-it.ac.jp) |        |         |     |
|               | コメント   | なし  |        |         |     |

|               |   |   |        |      |     |
|---------------|---|---|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング                                | 313024 |      |     |
| 科目名(英訳)       | ドイツ語I(GERMAN I)   |   |        |      |     |
| 担当教員          | 野田由美意   |   |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年                                    | 学部1年次  | 単位数  | 1単位 |
| 講義形式          | 演習  | 受講人数                                    | 50名    | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | ドイツ語文法、ドイツの歴史や文化  |   |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>授業の概要</p> <p>ドイツ語の世界は、文法を理解することから開けてきます。この授業では教科書、辞書、音声を使いながら基礎文法を中心に学び、また平易なドイツ文を読む練習や基本的な日常会話の練習を行います。ときにはドイツ語圏の文化や歴史、現代社会で問題となっていることを紹介します。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>ドイツ語の文法や会話に関する基礎知識を身につけることができます。またドイツ語圏の文化、歴史、現代社会に対する洞察を深めることができます。</p>   |   |        |      |     |
| 授業内容          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション:授業の説明</li> <li>2.ドイツとはどんな国か?</li> <li>3.発音</li> <li>4.動詞の現在人称変化</li> <li>5.平叙文・疑問文</li> <li>6.練習問題</li> <li>7.名詞の性</li> <li>8.定冠詞、不定冠詞、名詞の格</li> <li>9.練習問題</li> <li>10.不規則変化動詞</li> <li>11.命令形</li> <li>12.練習問題</li> <li>13.定冠詞類</li> <li>14.不定冠詞類、所有冠詞</li> <li>15.ドイツの音楽</li> </ol> |   |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 座学、復習を中心に、自ら積極的に語学を学ぶ姿勢が大切です。   |   |        |      |     |
| 教材・教科書        | 教科書:上野成利ほか、『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[四訂版]』、白水社、2300円+税<br>『アポロン独和辞典』第4版、同学社、4,200円+税  |   |        |      |     |
| 参考文献          | 相澤啓一『NHK新ドイツ語入門(CDブック)』日本放送出版協会、2006年など   |   |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 毎回の課題の平均点で点数を出します。全体得点の60%以上取得で合格とします。全授業回数の2/3以上出席しなければ、「出席不足」となります。   |   |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 授業で習ったことを必ず復習してください。その際、暗記しなければならない文法事項については、必ず暗記してください。また、興味を持ったドイツ語圏の歴史、文化、スポーツ、政治などを積極的に調べてみてください。   |   |        |      |     |
| 履修上の注意        | 毎授業後、必ず復習すること。  |   |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | ドイツ語II  | 実務家教員担当                                 | ○      |      |     |
| その他の          | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】                             |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | メールで連絡してください。ynoda@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |
|               | コメント  |   |        |      |     |

|               |   |   |        |      |     |
|---------------|---|---|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング                                | 313025 |      |     |
| 科目名(英訳)       | ドイツ語II(GERMANII)  |   |        |      |     |
| 担当教員          | 野田由美意   |   |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年                                    | 学部2年次  | 単位数  | 1単位 |
| 講義形式          | 演習  | 受講人数                                    | 50名    | 開講時期 | 前期  |
| キーワード         | ドイツ語文法、ドイツの歴史や文化  |   |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>授業の概要<br/>ドイツ語の世界は、文法を理解することから開けてきます。この授業では教科書、辞書、音声を使いながら基礎文法や発音を中心に学び、また平易なドイツ文を読む練習や基本的な日常会話の練習を行います。ときにはドイツ語圏の文化や歴史、現代社会で問題となっていることを紹介します。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ<br/>ドイツ語の文法や会話に関する基礎知識を身につけることができます。またドイツ語圏の文化、歴史、現代社会に対する洞察を深めることができます。</p>  |   |        |      |     |
| 授業内容          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション</li> <li>2.名詞の複数形</li> <li>3.人称代名詞の格変化、3・4格の語順</li> <li>4.練習問題</li> <li>5.前置詞</li> <li>6.前置詞と定冠詞の融合形</li> <li>7.練習問題</li> <li>8.形容詞の格変化の原則</li> <li>9.それぞれの格変化</li> <li>10.練習問題</li> <li>11.話法の助動詞の現在人称変化</li> <li>12.話法の助動詞の構文、助動詞werdenの現在人称変化</li> <li>13.練習問題</li> <li>14.ドイツの近代史と映画</li> <li>15.ドイツの現代史と映画</li> </ol> |   |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 座学、復習を中心に、自ら積極的に語学を学んでください。またドイツ語Iを履修した人はドイツ語IIも履修することを勧めます。  |   |        |      |     |
| 教材・教科書        | 教科書: 上野成利ほか、『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[四訂版]』、白水社、2300円+税<br>『アポロン独和辞典』第4版、同学社、4200円+税  |   |        |      |     |
| 参考文献          | 相澤啓一『NHK新ドイツ語入門(CDブック)』日本放送出版協会、2006年など   |   |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 毎回の課題の平均点で点数を出します。全体得点の60%以上取得で合格とします。全授業回数の2/3以上出席しなければ、「出席不足」となります。   |   |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 授業で習ったことを必ず復習してください。その際、暗記しなければならない文法事項については、必ず暗記してください。また、興味を持ったドイツ語圏の歴史、文化、スポーツ、政治などを積極的に調べてみてください。   |   |        |      |     |
| 履修上の注意        | 毎授業後、必ず復習すること。  |   |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | ドイツ語I   | 実務家教員担当                                 | ○      |      |     |
| その他の          | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】                             |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | メールで連絡してください。ynoda@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |
|               | コメント  |   |        |      |     |

|               |   |   |        |      |     |
|---------------|---|---|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング  | 313024 |      |     |
| 科目名(英訳)       | ドイツ語I(非常勤講師)(GERMAN I)  |   |        |      |     |
| 担当教員          | 大井 真奈(非常勤講師)  |   |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年  | 学部1年次  | 単位数  | 1単位 |
| 講義形式          | 演習  | 受講人数  | 50名    | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | ドイツ語文法、ドイツ語圏の文化、歴史、社会   |   |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>この授業では、教科書、辞書、音声を用いてドイツ語の基本文法を学びます。それと合わせて、ドイツ語の基本的な日常会話を練習したり、平易なドイツ語の文章を読んだりしていきます。また、ドイツ語圏の文化、歴史、社会事情などについて適宜紹介していきます。</p> <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>ドイツ語文法や会話の基礎知識を身につけることができます。また、ドイツ語圏の文化、歴史、社会に対する知識や関心を深めることができます。</p>   |   |        |      |     |
| 授業内容          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション:授業の説明、ドイツ語の挨拶</li> <li>2. ドイツ語圏の基本情報</li> <li>3. 発音</li> <li>4. 動詞の現在人称変化(1)</li> <li>5. 動詞の位置:平叙文・疑問文</li> <li>6. 練習問題</li> <li>7. 動詞の現在人称変化(2)sein,haben,werden</li> <li>8. 並列の接続詞</li> <li>9. 練習問題</li> <li>10. 定冠詞の変化</li> <li>11. 不定冠詞の変化</li> <li>12. 練習問題</li> <li>13. 名詞の複数形</li> <li>14. 人称代名詞</li> <li>15. ドイツ語圏の文化:音楽を中心に</li> </ol> |   |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 座学  |   |        |      |     |
| 教材・教科書        | 新倉真矢子ほか 『ゲナウ!グラマティック ノイ』郁文堂 2,200円+税<br>『アポロン独和辞典 第4版』同学社、4,200円+税  |   |        |      |     |
| 参考文献          | 相澤啓一『NHK新ドイツ語入門(CDブック)日本放送出版協会、2006年など  |   |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 毎回の課題の平均点で点数を出します。全体得点の60%以上取得で合格とします。全授業回数の2/3以上出席しないと、「出席不足」となります。  |   |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 授業後に必ず復習してください。特に授業中に必ず覚えるようにと指示された表現や文法変化は、その都度確実に覚えるようにします。また、授業やニュースなどを通してドイツ語圏の文化、歴史、社会などについての関心を広げ、積極的に調べてみましょう。   |   |        |      |     |
| 履修上の注意        | 必ず復習をします。文法など分からないことは分からないままにせず、その都度質問して解決しておくようにしてください。  |   |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | ドイツ語II  | 実務家教員担当   | —      |      |     |
| その他           | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】   |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | ひとまず、ほかのドイツ語教員の野田まで、メールしてください。野田から大井先生に連絡します。ynoda@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |
|               | コメント  |   |        |      |     |

|               |  |  |        |      |     |
|---------------|--|--|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング   | 313025 |      |     |
| 科目名(英訳)       | ドイツ語II(非常勤講師)(GERMANII)  |  |        |      |     |
| 担当教員          | 大井 真奈(非常勤講師)   |  |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年   | 学部2年次  | 単位数  | 1単位 |
| 講義形式          | 演習   | 受講人数   | なし     | 開講時期 | 前期  |
| キーワード         | ドイツ語文法、ドイツ語圏の文化、歴史、社会  |  |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>この授業では、教科書、辞書、音声を用いてドイツ語の基本文法を学びます。それと合わせて、ドイツ語の基本的な日常会話を練習したり、平易なドイツ語の文章を読んだりしていきます。また、ドイツ語圏の文化、歴史、社会事情などについて適宜紹介していきます。</p> <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>ドイツ語文法や会話の基礎知識を身につけることができます。また、ドイツ語圏の文化、歴史、社会に対する知識や関心を深めることができます。</p>  |  |        |      |     |
| 授業内容          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション:前期の復習</li> <li>2. 不定冠詞類</li> <li>3. 定冠詞類</li> <li>4. 練習問題</li> <li>5. 不規則動詞</li> <li>6. 命令形</li> <li>7. 練習問題</li> <li>8. 話法の助動詞</li> <li>9. 未来形</li> <li>10. 練習問題</li> <li>11. 前置詞</li> <li>12. 再帰代名詞</li> <li>13. 再帰動詞</li> <li>14. 練習問題</li> <li>15. ドイツ語圏の社会事情</li> </ol> |  |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 講義・演習  |  |        |      |     |
| 教材・教科書        | 新倉真矢子ほか 『ゲナウ!グラマティック ノイ』郁文堂 2,200円+税<br>『アポロン独和辞典 第4版』 同学社、4,200円+税  |  |        |      |     |
| 参考文献          | 相澤啓一『NHK新ドイツ語入門(CDブック)日本放送出版協会、2006年など   |  |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 毎回の課題の平均点で点数を出します。全体得点の60%以上取得で合格とします。全授業回数の2/3以上出席しないと、「出席不足」となります。   |  |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 授業後に必ず復習してください。特に授業中に必ず覚えるようにと指示された表現や文法変化は、その都度確実に覚えるようにします。また、授業やニュースなどを通してドイツ語圏の文化、歴史、社会などについての関心を広げ、積極的に調べてみましょう。  |  |        |      |     |
| 履修上の注意        | 必ず復習をします。文法など分からないことは分からないままにせず、その都度質問して解決しておくようにしてください。   |  |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | ドイツ語I  | 実務家教員担当  | —      |      |     |
| その他           | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】  |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー  | ひとまず、ほかのドイツ語教員、野田までメールしてください。野田から大井先生に連絡します。ynoda@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |
|               | コメント   |  |        |      |     |

|               |  |  |        |      |     |
|---------------|--|--|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング                                     | 313026 |      |     |
| 科目名(英訳)       | 中国語I(CHINESE I)  |  |        |      |     |
| 担当教員          | 鈴木 衛   |  |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年   | 学部1年次  | 単位数  | 1単位 |
| 講義形式          | 演習   | 受講人数   | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | 中国語の発音、中国語の構文、中国語圏の文化  |  |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | 日常生活に必要な語彙・表現をより多く習得し、初歩的なコミュニケーションができるようになることを目指す。  |  |        |      |     |
| 授業内容          | 第1回 発音(1)声調と母音<br>第2回 発音(2)子音と鼻母音<br>第3回 発音(3)軽声と声調変化<br>第4回 発音(4)数の言い方と数を使う表現<br>第5回 第1課 自己紹介<br>第6回 第1課、第2課 自己紹介、食事<br>第7回 第2課 食事<br>第8回 第3課 暑さ・寒さ、家族紹介<br>第9回 第3課、第4課 暑さ・寒さ、家族紹介<br>第10回 第4課 家族紹介<br>第11回 第5課 大学紹介<br>第12回 第5課 大学紹介<br>第13回 第6課 アルバイト<br>第14回 第6課 アルバイト<br>第15回 まとめ |  |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 文法の基礎を身に付け、会話に応用できる授業を実施する。  |  |        |      |     |
| 教材・教科書        | 『4技能習得!! 実践初級中国語－理解から定着、そして活用へー』金星堂<br>辞書の購入は任意  |  |        |      |     |
| 参考文献          | 必要に応じてプリント配布を行う。   |  |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 授業態度20%、小テスト30%、期末試験50%、全体得点の60%以上取得で合格とする。  |  |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 授業の予習・復習を行うこと。   |  |        |      |     |
| 履修上の注意        | 1/3以上欠席した学生は、試験を受けることができない。但し、正当な理由がある場合は、この限りではない。  |  |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 中国語II  | 実務家教員担当                                      |        | —    |     |
| その他の          | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】                                  |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー  | 国際交流センター 鈴木:suzuki-m@mail.kitami-it.ac.jp    |        |      |     |
|               | コメント   | 年に一回、中国語研修を実施しているため、授業で習得した中国語を実践の場で活用してほしい。 |        |      |     |

|               |  |                        |        |      |     |
|---------------|--|------------------------|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング               | 313026 |      |     |
| 科目名(英訳)       | 中国語I(非常勤講師)(CHINESE I)   |                        |        |      |     |
| 担当教員          | 范 為仁   |                        |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年                   | 学部1年次  | 単位数  | 1単位 |
| 講義形式          | 演習   | 受講人数                   | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | 中国語の発音・文字・文法、日中文化の異同、現代中国の事情紹介   |                        |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>授業の概要:<br/> 中国語の発音、文字、文法などの基礎を日中両言語の比較という視点から学ぶ。日中文化の異同、現代中国の事情を幅広く学ぶ。<br/> 達成目標:中国語の発音を比較的正確に読むことができる。簡単な中国語の文章を読んで理解できる。中国語で中国人と簡単なコミュニケーションをすることができる。</p>  |                        |        |      |     |
| 授業内容          | 第1回 発音(1)声調と母音<br>第2回 発音(2)子音と鼻母音<br>第3回 発音(3)軽声と声調変化<br>第4回 発音(4)数の言い方と数を使う表現<br>第5回 第1課 自己紹介<br>第6回 第1課、第2課 自己紹介、食事<br>第7回 第2課 食事<br>第8回 第3課 暑さ・寒さ、家族紹介<br>第9回 第3課、第4課 暑さ・寒さ、家族紹介<br>第10回 第4課 家族紹介<br>第11回 第5課 大学紹介<br>第12回 第5課 大学紹介<br>第13回 第6課 アルバイト<br>第14回 第6課 アルバイト<br>第15回 まとめ |                        |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 学生を主体にしてなるべく多くの練習の機会を与える。声を出して読ませるという方法で授業を進める。  |                        |        |      |     |
| 教材・教科書        | 『4技能習得!! 実践初級中国語－理解から定着、そして活用へー』金星堂  |                        |        |      |     |
| 参考文献          | 特になし   |                        |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 定期試験(60%)演習課題(40%)で評価し、定期試験と演習課題の総合点60点以上(100点満点)を合格とする。なお、演習課題は本文の朗読評価を含む。  |                        |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 授業の予習・復習を行うこと。   |                        |        |      |     |
| 履修上の注意        | 各学期、4回以上欠席した学生は、試験を受けることができない。但し、正当な理由がある場合は、この限りではない。   |                        |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 中国語II  | 実務家教員担当                | —      |      |     |
| その他の          | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】            |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー  | コースパワーの質問登録機能にて連絡を下さい。 |        |      |     |
|               | コメント   | 中国語で中国・中国人を学ぼう。        |        |      |     |

|               |   |  |        |      |     |
|---------------|---|--|--------|------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング   | 313026 |      |     |
| 科目名(英訳)       | 中国語I(非常勤講師)(CHINESE I)  |  |        |      |     |
| 担当教員          | 蕭 嘉瑩  |  |        |      |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年   | 学部1年次  | 単位数  | 1単位 |
| 講義形式          | 演習  | 受講人数   | なし     | 開講時期 | 後期  |
| キーワード         | 中国語の発音、中国語の構文、中国語圏の文化   |  |        |      |     |
| 授業の概要・達成目標    | 日常生活に必要な語彙・表現をより多く習得し、初歩的なコミュニケーションができるようになることを目指す。   |  |        |      |     |
| 授業内容          | 第1回 発音1・2 声調と単母音・子音<br>第2回 発音3・4 複母音・そり舌母音・鼻母音<br>第3回 第1課 自己紹介<br>第4回 第1課 自己紹介<br>第5回 第2課 一緒に映画を見ようよ<br>第6回 第2課 一緒に映画を見ようよ<br>第7回 第3課 キャンパス案内<br>第8回 第3課 キャンパス案内<br>第9回 第4課 ペットも家族の一員<br>第10回 第4課 ペットも家族の一員<br>第11回 第5課 誕生日のお祝い<br>第12回 第5課 誕生日のお祝い<br>第13回 第6課 遠距離通学<br>第14回 第6課 遠距離通学<br>第15回 まとめ |  |        |      |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 文法の基礎を身に付け、会話に応用できる授業を実施する。   |  |        |      |     |
| 教材・教科書        | 『初級中国語 この1冊 4技能の習得を目指して』金星堂<br>辞書の購入は任意   |  |        |      |     |
| 参考文献          | 必要に応じてプリント配布を行う。  |  |        |      |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 授業態度・課題50%、期末試験50%、全体得点の60%以上取得で合格とする。  |  |        |      |     |
| 必要な授業外学修      | 授業の予習・復習を行うこと。  |  |        |      |     |
| 履修上の注意        | 3分の1以上欠席した学生は、試験を受けることができない。但し、正当な理由がある場合は、この限りではない。  |  |        |      |     |
| 関連科目(発展科目)    | 中国語II   | 実務家教員担当  |        | —    |     |
| その他の          | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】  |        |      |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | 中国語取りまとめ教員 国際交流センター 鈴木:suzuki-m@mail.kitami-it.ac.jp |        |      |     |
|               | コメント  | 年に一回、中国語研修を実施しているため、授業で習得した中国語を実践の場で活用してほしい。         |        |      |     |

|               |  |  |        |         |     |
|---------------|--|--|--------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部   | 科目ナンバリング                                     | 313027 |         |     |
| 科目名(英訳)       | 中国語II(CHINESE II)  |  |        |         |     |
| 担当教員          | 鈴木 衛   |  |        |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)  | 対象学年   | 学部2年次  | 単位数     | 1単位 |
| 講義形式          | 演習   | 受講人数   | なし     | 開講時期    | 前期  |
| キーワード         | 中国語の発音、中国語の構文、中国語圏の文化  |  |        |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | 日常生活に必要な語彙・表現をより多く習得し、初歩的なコミュニケーションができるようになることを目指す。  |  |        |         |     |
| 授業内容          | 第1回 第7課 通学<br>第2回 第7課、8課 通学、買い物<br>第3回 第8課 買い物<br>第4回 第9課 長期休暇<br>第5回 第9課、10課 長期休暇、趣味<br>第6回 第10課 趣味<br>第7回 第11課 誕生日<br>第8回 第11課、第12課 誕生日、試験<br>第9回 第12課 試験<br>第10回 第13課 体調<br>第11回 第13課、第14課 体調、SNS<br>第12回 第14課 SNS<br>第13回 第15課 クラブ活動<br>第14回 第15課、第16課 クラブ活動、将来の夢・目標<br>第15回 まとめ |  |        |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 文法の基礎を身に付け、会話に応用できる授業を実施する。  |  |        |         |     |
| 教材・教科書        | 『4技能習得!! 実践初級中国語－理解から定着、そして活用へ－』金星堂<br>辞書の購入は任意  |  |        |         |     |
| 参考文献          | 必要に応じてプリント配布を行う。   |  |        |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 授業態度20%、小テスト30%、期末試験50%、全体得点の60%以上取得で合格とする。  |  |        |         |     |
| 必要な授業外学修      | 授業の予習・復習を行うこと。   |  |        |         |     |
| 履修上の注意        | 1/3以上欠席した学生は、試験を受けることができない。但し、正当な理由がある場合は、この限りではない。  |  |        |         |     |
| 関連科目(発展科目)    |  |  |        | 実務家教員担当 | —   |
| その他の          | 学習・教育目標  | 基礎教育科目【1-B】                                  |        |         |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー  | 国際交流センター 鈴木:suzuki-m@mail.kitami-it.ac.jp    |        |         |     |
|               | コメント   | 年に一回、中国語研修を実施しているため、授業で習得した中国語を実践の場で活用してほしい。 |        |         |     |

|               |   |                        |        |         |     |
|---------------|---|------------------------|--------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング               | 313027 |         |     |
| 科目名(英訳)       | 中国語II(非常勤講師)(CHINESE II)  |                        |        |         |     |
| 担当教員          | 范 為仁  |                        |        |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年                   | 学部2年次  | 単位数     | 1単位 |
| 講義形式          | 演習  | 受講人数                   | なし     | 開講時期    | 前期  |
| キーワード         | 中国語の基礎、日中文化の異同、現代中国の事情紹介  |                        |        |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>授業の概要：<br/>中国語の基礎を日中両言語の比較という視点から学ぶ。日中文化の異同、現代中国の事情を幅広く学ぶ。<br/>達成目標：より複雑な中国語の文章を読んで理解できる。中国語で中国人とより複雑なコミュニケーションをすることができる。</p>  |                        |        |         |     |
| 授業内容          | <p>第1回 第7課 通学<br/>第2回 第7課、8課 通学、買い物<br/>第3回 第8課 買い物<br/>第4回 第9課 長期休暇<br/>第5回 第9課、10課 長期休暇、趣味<br/>第6回 第10課 趣味<br/>第7回 第11課 誕生日<br/>第8回 第11課、第12課 誕生日、試験<br/>第9回 第12課 試験<br/>第10回 第13課 体調<br/>第11回 第13課、第14課 体調、SNS<br/>第12回 第14課 SNS<br/>第13回 第15課 クラブ活動<br/>第14回 第15課、第16課 クラブ活動、将来の夢・目標<br/>第15回 まとめ</p> |                        |        |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 学生を主体にしてなるべく多くの練習の機会を与える。声を出して読ませるという方法で授業を進める  |                        |        |         |     |
| 教材・教科書        | 『4技能習得!! 実践初級中国語－理解から定着、そして活用へ－』金星堂   |                        |        |         |     |
| 参考文献          | なし  |                        |        |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 定期試験(60%)演習課題(40%)で評価し、定期試験と演習課題の総合点60点以上(100点満点)を合格とする。なお、演習課題は本文の朗読評価を含む。   |                        |        |         |     |
| 必要な授業外学修      | 授業の予習・復習を行うこと。  |                        |        |         |     |
| 履修上の注意        | 各学期、4回以上欠席した学生は、試験を受けることができない。但し、正当な理由がある場合は、この限りではない。  |                        |        |         |     |
| 関連科目(発展科目)    |   |                        |        | 実務家教員担当 | —   |
| その他の          | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】            |        |         |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | コースパワーの質問登録機能にて連絡を下さい。 |        |         |     |
|               | コメント  | 中国語を学びながら中国・中国人を理解しよう。 |        |         |     |

|               |   |  |        |         |     |
|---------------|---|--|--------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング   | 313027 |         |     |
| 科目名(英訳)       | 中国語II(非常勤講師)(CHINESE II)  |  |        |         |     |
| 担当教員          | 蕭 嘉瑩  |  |        |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年   | 学部2年次  | 単位数     | 1単位 |
| 講義形式          | 演習  | 受講人数   | なし     | 開講時期    | 前期  |
| キーワード         | 中国語の発音、中国語の構文、中国語圏の文化   |  |        |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | 日常生活に必要な語彙・表現をより多く習得し、初歩的なコミュニケーションができるようになることを目指す。   |  |        |         |     |
| 授業内容          | 第1回 第7課 北京のベストシーズンは？<br>第2回 第7課 北京のベストシーズンは？<br>第3回 第8課 中国語の勉強<br>第4回 第8課 中国語の勉強<br>第5回 第9課 リスニングは難しい<br>第6回 第9課 リスニングは難しい<br>第7回 第10課 サークル活動<br>第8回 第10課 サークル活動<br>第9回 第11課 携帯電話<br>第10回 第11課 携帯電話<br>第11回 第12課 財布の紛失<br>第12回 第12課 財布の紛失<br>第13回 第13課 春節に故郷を思う<br>第14回 第13課 春節に故郷を思う<br>第15回 まとめ |  |        |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | 文法の基礎を身に付け、会話に応用できる授業を実施する。   |  |        |         |     |
| 教材・教科書        | 『初級中国語 この1冊 4技能の習得を目指して』金星堂<br>辞書の購入は任意   |  |        |         |     |
| 参考文献          | 必要に応じてプリント配布を行う。  |  |        |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 授業態度・課題・小テスト50%、期末試験50%、全体得点の60%以上取得で合格とする。   |  |        |         |     |
| 必要な授業外学修      | 授業の予習・復習を行うこと。  |  |        |         |     |
| 履修上の注意        | 3分の1以上欠席した学生は、試験を受けることができない。但し、正当な理由がある場合は、この限りではない。  |  |        |         |     |
| 関連科目(発展科目)    |   |  |        | 実務家教員担当 | —   |
| その他の          | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】  |        |         |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | 中国語取りまとめ教員 国際交流センター 鈴木:suzuki-m@mail.kitami-it.ac.jp |        |         |     |
|               | コメント  | 年に一回、中国語研修を実施しているため、授業で習得した中国語を実践の場で活用してほしい。         |        |         |     |

|               |   |             |         |         |     |
|---------------|---|-------------|---------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング    | 313028  |         |     |
| 科目名(英訳)       | 実用英語(PRACTICAL ENGLISH)   |             |         |         |     |
| 担当教員          | 戸澤 隆広, 青木 愛美<br>高城 翔平, 鈴木 舞彩  |             |         |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年        | 学部1~4年次 | 単位数     | 1単位 |
| 講義形式          | —   | 受講人数        | なし      | 開講時期    | 通年  |
| キーワード         | 実用英検、TOEIC、TOEFL、技術英検、学習の成果の認定  |             |         |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>・国際化社会で活躍するには、英語力は必要不可欠である。この背景のもと、意欲的に英語能力の向上を図ろうとする学生に対し、その学修の成果を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定することとする。</p> <p>・実用英検、TOEIC、TOEFLまたは技術英語を受験し、本学が定める基準を達成する必要がある。</p> <p>・本学が定める基準を達成した場合は、「英検等単位認定申請書」に必要書類(合格証明書等)を添えて、教務課へ単位認定を願い出る。</p> |             |         |         |     |
| 授業内容          | <p>単位認定の基準は以下である。</p> <p>実用英検:2級以上<br/>TOEIC:550点以上<br/>TOEFL:iBT57点以上<br/>技術英検:1級以上</p>  |             |         |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 |   |             |         |         |     |
| 教材・教科書        |   |             |         |         |     |
| 参考文献          |   |             |         |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | 成績評価は行わず認定とする。  |             |         |         |     |
| 必要な授業外学修      |   |             |         |         |     |
| 履修上の注意        |   |             |         |         |     |
| 関連科目(発展科目)    |   |             |         | 実務家教員担当 | —   |
| その他の          | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】 |         |         |     |
|               | 連絡先・オフィスアワー   | 教務課修学支援係    |         |         |     |
|               | コメント  |             |         |         |     |

|               |   |  |         |         |     |
|---------------|---|--|---------|---------|-----|
| 入学年度・開講所属     | 2026(R8)・工学部  | 科目ナンバリング   | 313029  |         |     |
| 科目名(英訳)       | 海外研修(INTERNATIONAL PROGRAM)   |  |         |         |     |
| 担当教員          | 小野真嗣  |  |         |         |     |
| 科目区分          | 選択(基礎教育科目人と社会に関する科目群)   | 対象学年   | 学部1～4年次 | 単位数     | 1単位 |
| 講義形式          | —   | 受講人数   | なし      | 開講時期    | 通年  |
| キーワード         | 語学研修、文化研修、異文化交流、研究交流、英語運用実践   |  |         |         |     |
| 授業の概要・達成目標    | <p>本科目は、本学の海外協定大学が実施する短期研修プログラムに参加し、語学研修や文化体験、研究交流などを通じて異文化理解と国際的な視野を育成することを目的とする。学生は現地大学での授業や交流活動に参加し、研修先が定める要件を満たした場合に、本学の単位として認定される。単位認定には、研修参加後の学期に履修登録を行い、必要書類を担当教員へ提出することが必要である。なお、研修先やプログラム内容により認定条件が異なるため、詳細は担当教員に確認すること。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化環境における学修活動を通じて、現地の文化や社会について理解を深めることができる。</li> <li>・語学研修や交流活動を通じて、基礎的なコミュニケーション能力を向上させることができる。</li> <li>・多様な価値観に触れながら、国際的な視点から物事を考え、主体的に行動できるようになる。</li> <li>・研修で得た経験や学びを整理し、自身の成長として振り返ることができる。</li> </ul> |  |         |         |     |
| 授業内容          | <p>研修は、研修先大学での語学授業や講義による座学と、現地の文化・社会に触れる体験型学修を組み合わせた構成となっている。具体的にイメージできるよう、昨年度の実施例を以下に示す。</p> <p>【昨年度の主な研修実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュージーランド・ワイカト大学(3～5週間):英語研修、地域文化体験、現地学生との交流</li> <li>・カナダ・カモソン大学(2週間):英語授業、キャンパスツアー、文化体験活動</li> <li>・マレーシア・マレーシア工科大学(16日間):工学系施設見学、文化理解プログラム、学生交流</li> <li>・タイ・泰日工業大学(10日間):工業系教育機関の訪問、学生交流、文化体験</li> <li>・台湾・中国医薬大学(5日間):中国語授業、市内文化史跡巡り、博物館訪問</li> </ul>   |  |         |         |     |
| 授業形式・形態及び授業方法 | <p>本科目では、海外の協定校等が実施する短期研修プログラムに参加し、語学学習、異文化理解、文化体験を中心とした多様な学修活動を行う。授業形式は、研修先大学での語学授業や講義による座学に加え、現地の学生や教員との交流、地域文化や歴史に関する施設見学、文化史跡巡りなどのフィールドワークを組み合わせた実践的な構成となる。これらの活動を通じて、学生は異文化環境で主体的に学び、コミュニケーションや協働を経験するアクティブラーニング型の学修を行う。研修内容は参加先により異なるが、いずれも座学と体験型学修を組み合わせ、国際的な視野を育成することを重視している。</p>   |  |         |         |     |
| 教材・教科書        | 教材は現地で配布される。  |  |         |         |     |
| 参考文献          | 『研究留学のすゝめ!～渡航前の準備から留学後のキャリアまで』羊土社, 2016.  |  |         |         |     |
| 成績評価方法及び評価基準  | <p>本科目の成績は、研修先での学修活動への参加状況、研修内容に関する提出物、ならびに研修先機関が発行する修了証明等を総合的に評価して判定する。具体的には、語学授業や交流活動への出席・参加態度、課題への取り組み、研修後に提出するレポートや振り返りの内容などを評価の対象とする。研修先での活動が所定の条件を満たし、本学が定める基準に適合した場合に単位を認定する。</p>  |  |         |         |     |
| 必要な授業外学修      | <p>研修前には、研修先の文化・社会・歴史、語学表現などについて事前調査を行い、研修内容を理解するための基礎知識を身につける。研修期間中は、授業内容や活動の記録を日々整理し、学修の振り返りを継続的に行う。研修後には、得られた経験や学びを整理し、レポート作成や成果のまとめを通じて学修内容を深める。これらの事前・事中・事後の学修を主体的に行うことで、研修の教育効果を高めることが求められる。</p>  |  |         |         |     |
| 履修上の注意        | 各研修ごとに単位認定要件や提出書類が異なる。履修前に必ず担当教員の指示を確認すること。   |  |         |         |     |
| 関連科目(発展科目)    | 外国語系科目、国際関係論  |  |         | 実務家教員担当 | —   |
| その他           | 学習・教育目標   | 基礎教育科目【1-B】  |         |         |     |
|               | 連絡先・オフィスワ   | 国際交流センターまでお問合せ下さい。教員(小野): onomasa@mail.kitami-it.ac.jp   |         |         |     |
|               | コメント  | 海外渡航にはパスポートの取得が求められます。いつでも行けるように今から手元に用意しておきましょう! ( <a href="https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/page22_004036.html">https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/page22_004036.html</a> )。 |         |         |     |